

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年3月15日

事業所名 児童デイサービス・アニマートうるま安慶名

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			壁やパーテーションを用いて工夫した療育を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	4			時間と配置を1週間ごとに計画し、状況に応じて対応をおこなっている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	2			大きな段差は、無いがトイレや入り口に手すりが無いため設置の検討が必要。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4			必ず、朝礼と終礼を行い全員で共通理解と見直しをしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1			アンケートの調査結果を職員間で話し合い、可能な限り保護者の意見や要望に沿って療育の質を上げていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4				HPと室内掲示にて公表している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		1	3		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4				コロナ禍でzoom等オンライン研修が多くなっている。スキルアップ向上の為に多く参加し、振り返りとして施設内研修を設けている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			送迎時や電話等で様子や気になる事を聞き取り情報共有している。	児童と保護者のニーズや課題に合わせて作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			専門の支援員など得意分野を軸に全体で話し合い計画している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			SNSやYouTubeなどネットで新たな活動計画案を探し実践している。	年齢に合わせて目的が異なってしまうが、同じ活動を通して個別に合った成長を促す。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4			個別面談を設け、学習や目標を一緒に考え設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4				個々に合わせ、個別と集団の必要性を考慮し計画している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4			週の予定表を元に一日の動きを朝礼にて確認をする。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4			振り返りや改善点をその日のうちに出し合い情報共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			支援終了後に記録をする。	終礼で話し合ったことに関して、翌日の朝礼にて改善策を再度振り返る。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4				半年に1回以上のモニタリングを行い保護者の要望を聞き取り支援計画を見直し作成している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	1			職員全員で定期的に読み合わせを行う。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4				時間や場所、状況に応じて、児童発達支援管理責任者と支援員で2名で参加する事もある。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4			送迎時に必ず確認と情報共有をしている。	変更等あった際は、担任から電話が必ず入っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	1			該当者はいません。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3		1		相談員や保護者、各種関係機関と情報共有を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		2	2		該当者はいません。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3			コロナ禍の為、機会が減っている。必要に応じて連携を図っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1		3		コロナ禍の為、機会が減っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		4			コロナ感染予防の為、機会が減っている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4				連絡帳だけではなく送迎時に話をし情報共有をしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4				入所前や必要に応じて話を聞き支援をしている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4				契約時に重要事項説明書を用いて、支援内容、サービス提供時間、利用者負担等について説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4				相談に対し助言等をしたり、必要に応じてすぐに答えず持ち帰って検討をする。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4				年に1回、短時間で開催している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4				迅速に対応し、出来るだけその日のうちに不安を解消できるよう努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4				月に1回の月間通信と行事に合わせた個別通信を発行している。
	35	個人情報に十分注意している	4				契約時に個人情報使用同意書に同意を頂き、肖像権同意書も確認している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4				個々に合わせて情報伝達を行っている。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3	1		以前は、開催していたがコロナ禍の為していない。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4				各種マニュアルを作成し掲示をしている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4				年に2回、消防署に申出を行い、訓練をしている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4				虐待防止研修の参加や事業所内研修をし、職員全員で考えている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4				身体拘束に関する指針あり。 身体拘束の必要な該当児童なし。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4				食物アレルギー児童なし。活動に応じて保護者に確認をとっている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4				事例をもとに話し合いをしている。